

## 大西 愛

## ■アーキビストの海外ボランティア活動

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）で2009年9月、国連アーカイブ整理ボランティアが始まり、毎年2週間の作業が3年続いた。海外のアーカイブの実務を経験してみたいという日本のシニア・アーキビストの夢が実現したのである。

整理するのはFonds24と呼ばれる香港からジュネーブに引き揚げられたベトナム難民の記録である。UNHCRの記録のなかでもアジア地域資料の整理はヨーロッパのそれに比べると遅れがちであるらしい。求められた作業は一言でいうと、ISAD（UNHCR）のFonds24完成である。2009年は、全体量の把握（文書保存箱とバインダーの数）、香港から運び込まれたときの各種リストと照合し、現存するバインダーリストを作製した。

2010年は、資料をバインダーからはずしてフォルダに入れ、フォルダに見出しを手書きする。1フォルダは2センチ程度、1バインダーを2-4フォルダにわける。これらのフォルダをアーカイブボックスに入れる。フォルダ、ボックスともに中性紙。シニアでスタートしたチームはこの年から現役も参加した。

2011年はアーカイブボックスにいれた資料の年代確定である。本年の参加は半数がシニア、半数が現役となる。さらに、日本の東日本大震災の被災状況を知ってもらうための報告会「津波、失われた記録の救助」が開かれた。UNHCRアーカイブ課の関係者、日本人職員、日本に関心がある職員、周辺国際機関のアーキビスト数名も駆けつけてくれた。被災地の様子、「史料ネット」という組織の活動、資料救助の手法の各15分程度の報告と質疑応答を行った。質問はフリーズドライという水損資料の修復手法に集中した。ここでは、どうやらほとんど知られていないような印象であった。また、この報告会をきっかけとして、アレニコフ副高等弁務官との会談が実現した。

日本からわざわざアーカイブ整理ボランティアに来たことに謝辞を述べられ、「この仕事、ご自身にはどんなメリットがありますか？」との質問に小川代表は「日本の公文書管理の実務との比較検討ができる、絶好の機会です。」と返答した。

このベトナム難民資料を整理し終わるのは、計算するとあと5年ほどかかる。最終的には、UNHCR FOND24のラベルを貼った箱が書庫に並ぶ予定である。その時にはインターネット上に私たちが作ったFonds24の検索目録が掲示される。なお、2011年の活動には、平成23年度財団法人KDDI財団から社会的文化的諸活動として助成金を得た。

【シニアアーキビストボランティアNHCR作業チーム】代表：小川千代子（国際資料研究所）大西愛（大阪大学出版会）松村光希子（国立国会図書館）秋田通子（宇和島市教育委員会）金山正子（元興寺文化財研究所）堀井靖枝（滋賀大学経済学部附属史料館）下田尊久（藤女子大学）西村直子（大阪大学）元ナミ（東京学芸大学）

（大阪大学出版会）